



明治中期の外国人居留地

第43回テーマ： 六甲山と外国人たち

講演内容

- ①神戸と外国人居留地
- ②六甲山をめぐる多彩な活動
- ③新種のカタツムリ・
青い目の人形

実施日：平成18年10月21日（土）
午後1時～3時45分

場 所：六甲山自然保護センター内
レクチャールーム



講師：田井 玲子さん
プロフィール

1955年生まれ、広島大学文学部史学科国史学専攻卒業。神戸市立博物館学芸員。専門は近世・近代日本史。

午前中は着々とササ刈り

秋晴れの空の下、今月も近畿自然歩道のササ刈りを進めました。前回整備した散策路は明るくなり、植物の出現が楽しみです。整備には12名が参加されました。2回目のササ刈りでコツを掴んできたのか、予定を上回るペースで進みました。

以前から問題にしていた、坂道や路肩の崩れやすいところには森林整備事務所によって丸太で補強がされて、歩きやすくなっていました。



近畿自然歩道の斜面のササ刈り

次々と探求を広げる田井さん

セミナーの講師は、神戸市立博物館の田井さんです。田井さんは博物館が設立される前の準備室当時から勤務されています。神戸の開港からの歴史、ギュリキマイマイ、青い目の人形など、時代考証を踏まえたしっかりとしたお話が聞けました。田井さんは歴史だけでなく、自然分野にも探求を広げておられ、セミナー当日はスミスネズミ捕獲隊にも参加されるということでした。

主催：六甲山自然保護センターを活用する会

協力：兵庫県立人と自然の博物館

後援：兵庫県神戸県民局 灘区役所 神戸市教育委員会

神戸開港以来の外国人の活躍

神戸の開港の歴史を知り、明治から大正時代の神戸の外国人の活躍ぶりを知りました。スライドでは明治時代の神戸や六甲山の写真を見せていただき、昔の様子がよくわかりました。

青い目の人形のお話では、戦前の日米友好を図る草の根の市民活動を知り、忘れてはならない歴史のひとこまを見直すことができました。

六甲山開発を担った居留地の外国人

外国人による六甲山の開発は神戸開港に端を発するというお話で、居留地の生活文化と、六甲山との結びつきを深く理解することができました。

私たちも、ただ六甲山に上るだけではなく、現在目に触れるものの背後にあるものを知った上で、六甲山の活動に取り組みたいと、思いを新たにしました。

※詳しくは、1. 2ページをお読みください。

参加の感想 宮本 和子さん

六甲山の多彩な活用・新種の生物の発見など、来日した外国人の活動振りを資料をもとに丁寧に説明していただいた。海上から或いは高台から撮影された写真、外国人居留地・モダンな白い税関の建物・扇形をした港の様子など、その頃の神戸の姿に見とれた。

世界児童親善会の設立と友情の人形交流に尽力されたシドニー・ルイス・ギュリック氏の遺骨は祖父母の眠られる神戸の外国人墓地に埋葬されたことに感銘を受けた。

【助成金をいただいている機関】

(財)大阪コミュニティ財団(東洋ゴムグループ環境保護基金)、コベルコ環境保全基金
公益信託自然保護ボランティアファンド
ひょうご環境保全創造活動、コープこうべ環境基金



第43回テーマ：六甲山と外国人たち



第43回市民セミナーの流れ

市民セミナー

1. あいさつ：13:00～13:15
2. 講演：13:15～14:40
3. 質疑応答：14:40～15:00
4. 休憩：15:00～15:15
5. 交流会：15:15～15:45

講演

- ①神戸と外国人居留地
- ②六甲山をめぐる多彩な活動
- ③新種のカタツムリ・青い目の人形



セミナーの様子

講演の挨拶(田井玲子さん)

今日は、なぜ外国人が神戸にやってくるようになったのか。外国人が六甲山をどうとらえて、どう楽しんだのか。新種のカタツムリや青い目の人形の話を通して紹介します。



田井さん

講演内容

1. 神戸と外国人居留地

■外国人居留地とは

外国人居留地は、幕末の安政5(1858)年に結んだ日米修好通商条約などの通商条約に起源を持っている。日本が貿易を行うために条約を結んだ国の外国人に対して、居住と営業を認めた区域で、東京、大阪、横浜、神戸、長崎などに設置された。その中で、居留地が実質的に機能し、貿易港として発展していったのは神戸と横浜である。

■神戸の外国人居留地

慶応3年12月(1868年1月)の開港に伴って設けられた居留地は、砂地や田畑を埋め立てて造成され、外国人の自治で運営された。

地域は、東西が現フラワーロードあたりから現メリケンロード、南北が海岸から現在の花時計の北側の道路にかけての範囲に広がっていた。居留地のほかに、山の手まで広がる「雑居地」もあった。居留地は明治32年に廃止されて神戸市に編入された。



明治中期の神戸港



諏訪山から見た明治中期の神戸港

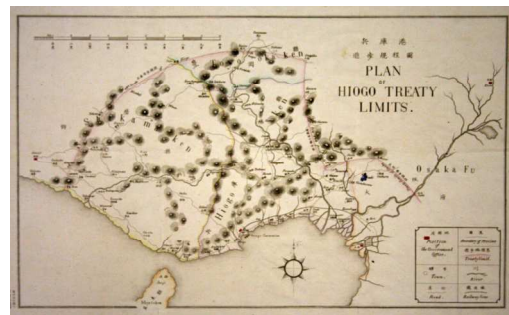
■神戸の外国人たち

明治26年には、1768人の外国人がいた。中国人が6割で、欧米系ではイギリス、ドイツ、アメリカの順に多かった。西洋人は日本に進出してくる際、大勢の中国人を貿易の仲立ちやコックなどの使用人として連れてきたことから、中国人が多い。

外国人の職業は、領事館関係者、専門的な知識や技術を持つお雇い外国人、貿易・海運・金融などに携わる人々、医師、ジャーナリストなどで、キリスト教の宣教師は初期から来神していた。

■外国人遊歩規定

外国人は京都近郊を除き、開港場の10里(約40km)四方の内側であれば、自由に出かけることができた。区域外に出るためにはパスポートが必要だった。遊歩規定には、外国人の活動を制限する面もあった。六甲山地はこの範囲に入るので、自由にピクニックや登山をすることができた。



兵庫港遊歩規程図

2. 六甲山をめぐる多彩な活動

■スポーツと娯楽

外国人は、プライベートな生活を大切にし、六甲山でも四季折々を楽しんだ。狩猟や登山、ゴルフを楽しみ、秋にはマツタケ狩り、冬にはスケートもしていた。三国池で水泳するグルームの写真も残っている。六甲山でのリゾートライフを含め、本国でより豊かな暮らしを実現した人も多い。

■リゾート地としての開発

リゾートとしての開発に先鞭をつけたのがロンドンっ子のA. H. グルーム。明治28年、三国池のほとりにバンガロー風の別荘を建てた。これは六甲山で最初の別荘といわれている。その後、山上に日本最初のゴルフ場がつくられ、別荘も徐々に増えていった。明治43年には56軒あった別荘の8割が外国人の所有で、六甲山は「外人村」と呼ばれた。

3. 新種のカタツムリ・青い目の人形

■新種のカタツムリ—ギュリキマイマイ

ギュリック家はアメリカの名門の家系で活動的な宣教師を多く輩出したことで知られる。

ジョン・トマス・ギュリックもアメリカン・ボード(米国外国伝道委員会)の宣教師として、中国と日本で活躍した。ジョン・トマスの長男、アディソン・ギュリックは大阪で生まれ、米国で教育を受けて、後にミズーリ州立大学で医学部教授を務めた。

父は息子に野外生物学を教えることを兼ねて、日本の陸貝についても研究した。外国人が避暑地としてよく利用した有馬でギュリキマイマイを発見した。ギュリキマイマイは昭和3年に新種発表された。



ギュリキマイマイ(西宮市貝類館提供)

■青い目の人形は世界平和を志した運動

ジョン・トマス・ギュリックの甥、シドニー・ルイス・ギュリックはアメリカン・ボードの宣教師として来日し、同志社大学などで教鞭を取った。

大正2年にアメリカに帰国したが、日本人移民排斥運動が激しさを増すのを目の当たりにし、心を痛めた。シドニー・ルイスは子どもの友情を育てて将来の世界平和を実現させていこうと決意し、世界児童親善会を設立。アメリカの子どもたちから日本の子どもたちへ人形使節を送る計画を立てた。

■日本に送られた青い目の人形



青い目の人形
(甲南幼稚園所蔵)

昭和2年に12700体余が日本に到着、各地の小学校に送られ、答礼人形58体がアメリカに送られた。しかし太平洋戦争が始まると人形は各地で処分されていった。

昭和63年の調査では、218体の青い目の人形と、24体の答礼人形の現存が確認されている。

シドニー・ルイスはアメリカの長女のもと、父の墓地、そして神戸市立外国人墓地に埋葬されている。

質疑応答

外国人は有馬温泉で温泉に入った? : 欧米の女性は人前で肌を見せず、押入れにブリキの板を張ってシャワーを作った人もあった。公衆浴場へは、新出の文献から、すでに明治3年8月に外国人男性が入湯したことが確認できる。

居留地は100年後を意図して設計されたの? :

どの程度意図していたのかはわからないが、街の区画や道路はほとんど昔と変わっていない。下水道には当時のものが一部まだ使われている。イギリスの高度な土木技術と先見の明がその背景にあると思う。

まとめ(田井さん)

博物館は、先人が培ってきた文化遺産を守り、育みながら次の世代へ継承していくことを大きな目的としています。資料とその情報は、展示や出版物、講座などを通して、できる限り公開するようつとめています。

参加の感想

水谷 真平さん

あんなに大きなそして小さなカタツムリ。自分でも捕まえてみたい衝動に駆られた。六甲山にはまだまだ隠された宝物がたくさん眠っていることが分かり、一人の冒険者としていろいろなロマンを見つけ出したいと思う。



はげ山の時代から人間の手が入り六甲山は出来た。でも、残してくれたものは大きな宝だった。しかし、人間が関わっていくことでしか生きられない部分もたくさんある。

事務局より

今日の田井さんのお話、第7回の桑田さん、第11回の田原さんに続き、明治の居留地の歴史や文化にも詳しくなりました。

六甲山の自然と生活文化を大きな広がりで見ると様々な魅力が再発見できると思います。

◆参考・配布資料など

- ・レジュメ、スライド
- ・港・市街地観光ガイドマップ
- ・コウベマイマイとギュリキマイマイの標本

神戸市立博物館

田井 玲子

〒650-0034 神戸市中央区京町24番地

TEL : 078-391-0035

FAX : 078-392-7054

※追記 : 田井玲子著『外国人居留地と神戸 神戸開港150年によせて』神戸新聞総合出版センター刊2013年

◆参加者の声~アンケートより~

- ・セピア色の神戸港の写真は感動的だった。
- ・六甲を知る視点として大変興味深かった。
- ・(散策路整備で) 勤労の喜びを語られたのがよかった。

◆参加者 : 25名(順不同・敬称略)

田井 玲子 青木 孝子 浅井 審一 泉 美代子
岩木美寿雄 小坂 忠之 立石 四郎 武野 真也
水谷 真平 宮本 和子 村上 定広 八木 浄
渡辺 信治 亀川 甲 山田 良雄 鎌田 道子
柴田 正生 上田 厚子 石田 澄子 米村 邦稔
香西 直樹 尾崎 尚子 堂馬 英二 堂馬 佑太
時政えみ子